科　目　名	情報Ⅰ			単位数	2	履修区分	必　履　修
対　象　の　部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教　材	最新情報Ⅰ　新訂版 （実教出版）		
履　修　の　条　件	最大履修者40人（そのため、再履修の生徒は希望する時間帯での履修ができない可能性があります。）						
先　生　か　ら　の ア　ド　バ　イ　ス	情報Ⅰでは、情報モラルや情報セキュリティなど現代の情報化社会を生きていくうえで必要不可欠な内容を中心に学習します。プログラミングやプレゼンテーション作成などでは実技を取り入れ、実践的に学習します。 また、全国商業高等学校協会主催の情報処理検定（情報基礎）に対応できるように指導も行う予定です。						

評　価　の　観　点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観　点　の　内　容		情報と情報技術を問題の発見、解決に活用するための知識について身に付けているか。 情報化の進展する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いる力を身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見、解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善することができているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。
評価方法	学習状況の観察	△	△	◎
	提出物・小テスト	○	○	◎
	定　期　考　査	◎	◎	△

学期	月	学習内容（単元名）	評　価　規　準		
前期	4	第1章　情報社会と問題解決	・データ、情報、知識の意味と相互の関係について説明することができる。 ・効果的な情報デザインの活用方法について説明することができる。 ・コンピュータの構成や演算の仕組みについて説明することができる。	・情報の特性を活用した事例と情報の特性によって生じる事例を挙げることができる。 ・SNSの活用など、不特定多数を対象としたコミュニケーションの注意点を挙げることができる。 ・情報と情報技術の活用により加害者にならないための注意点や被害者にならないための対策方法を挙げることができる。	・わかりやすい報告書やレポートを作成するため、文書の構成やレイアウトについて自ら進んで工夫し、教員の助言や相互評価に基づいて改善しようとしている。 ・プレゼンテーションの実施などにあたって、情報伝達の目的に適合するコンテンツ制作に努め、試行錯誤しながら個人やグループのコンテンツ制作の技能を高めようとしている。
	5	定期考査　①			
	6	第2章　コミュニケーションと情報デザイン			
	7	定期考査　②			
	9	第3章　情報のデジタル化とコンピュータ			
後期	10	第4章　アルゴリズムとプログラミング **修学旅行に関する探究学習実施（後期中間考査代替）**	・コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明することができる。 ・ソフトウェアの種類とその働きを説明することができる。 ・ハードウェア、OS、応用ソフトウェアの関係を説明することができる。 ・情報セキュリティの概念と重要性を理解している。 ・データの活用の重要性と処理方法について理解している。	・コンピュータを構成する各装置の機能と相互の関係考え、適切に接続して動作させることができる。 ・コンピュータの演算の仕組みについて、順序立てて説明することができる。 ・情報機器を相互に接続するために、適切なインタフェースを選択することができる。 ・アナログとデジタルを比較し、その特徴を適切に説明できる。	・コンピュータを構成する装置とその性能について興味や関心を示し、自分で調べようとしている。 ・コンピュータが計算する仕組みについて興味、関心を持ち、理解しようとする。 ・情報のデジタル化について、より深く理解しようとしている。 ・コンピュータによる演算や数値計算の仕組みについて関心を示し、理解しようとしている。 ・プログラミングにおいて、実習に主体的に参画しようとしている。
	11	第5章　情報通信ネットワークとセキュリティ			
	12				
	1	定期考査　④			
	2	第6章　データの活用とシミュレーション			
	3				

科　目　名	ビジネス・コミュニケーション			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部			夜間部	使用教科書 教材		ビジネス・コミュニケーション 新訂版 （東京法令出版）	
履修の条件							
先生からの アドバイス	社会人として必須となるマナーやコミュニケーション方法などを学びます。また、マーケティング分野やマネジメント分野の基礎理論についても併せて学習します。 必要に応じて公益財団法人実務技能検定協会主催の秘書検定や全国商業高等学校協会主催のビジネス・コミュニケーション検定試験の問題演習も行います。						

評価の観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解し、コミュニケーションをとるうえで関連する知識や技能を身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	ビジネスにおけるコミュニケーションをはじめとした様々な知識、技術などを活用し、コミュニケーションが改善を要する事例などについて解決するカを身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員としての自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築するカを身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。
評価方法	学習状況の観察	△	△	◎
	提出物・小テスト	○	○	◎
	検定試験への取組	○	○	◎
	定期考査	◎	◎	△

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第1章　ビジネスとコミュニケーション	・国内外でのビジネス環境が変化したり、組織内部の人材が多様化したりしていることを理解している。 ・コミュニケーションの定義について理解している。 ・組織の階層構造についての知識を身に付けている。 ・組織の意思決定の流れと方法についての知識を身に付けている。	・国内外でのビジネスにおいて、人材や組織に対応したコミュニケーションの方法について考えようとしている。 ・身の回りの具体的な事例を踏まえて、普段の生活におけるコミュニケーションの方法について考えようとしている。 ・組織の階層構造がビジネスに与える影響について、考えようとしている。	・国内外でのビジネス環境の変化に興味・関心を持ち、ビジネス・コミュニケーションについて主体的に学習しようとしている。 ・組織の階層構造や意思決定の方法について主体的に学習しようとしている。 ・どのような組織にどのような階層構造が適しているかについて、考えようとしている。
	5	定期考査　①			
	6	第2章　ビジネスマナー			
	7	定期考査　②			
	9	第2章　ビジネスマナー			
後期	10	第3章　ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション	・挨拶に必要な要素について理解している。 ・日本の慣習や文化を紹介するときのポイントについて理解している。 ・英語による受け答えの基本についての技術を習得している。 ・商品のやりとりをする際、特定の英語表現を用いることで、ビジネスの機会が広がる可能性があることについて理解している。 ・英語を話す顧客に落ち着いて応対するための技術を習得している。	・よい雰囲気のなかで会話をおこなうために必要な挨拶の要素について考え、表現しようとしている。 ・日本の慣習や文化の特徴について考えている。 ・英語による受け答えの基本について説明することができる。 ・事前に調べた英語表現を用いて、自己紹介しようとしている。 ・商品やサービスに関わる英語表現について考え、表現しようとしている。	・日本の慣習や文化に興味、関心を持ち、異なる文化を持つ相手に伝えようとする態度を形成しようとしている。 ・場面に応じた適切な受け答えを実現していこうとする態度を形成しようとしている。 ・英語を用いて自分の趣味や気に入っているものについて相手に伝えようとする態度を形成しようとしている。
	10	定期考査　③			
	11	第3章　ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション			
	12	第4章　ビジネスと外国語			
	1	定期考査　④			
	2	第4章　ビジネスと外国語			
	3				

科　目　名	簿記			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部	夜間部	使用教科書 教材	新簿記　新訂版 （実教出版）		
履修の条件	全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定受験への理解があること。（検定試験は週休日に設定されます）（受験料は教材費として、年度初めに徴収します） 電卓を用意できること（四則演算ができれば充分です）						
先生からのアドバイス	ビジネスの共通言語とも呼ばれる簿記会計について、財務会計の基礎的内容を中心に学習します。財務諸表の作成や仕訳など計算を必要とする内容が多いので、電卓を用意する必要があります。 全国商業高等学校協会主催の簿記実務検定３級（１月実施予定）の受験も行います。そのため、教材費がかかります。（￥1,600予定）						

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	簿記について実務に即して体系的、系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応する力を身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、 適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。
評価方法　学習状況の観察	△	△	◎
評価方法　提出物・小テスト	○	○	◎
評価方法　検定試験への取組・結果	○	○	◎
評価方法　定期考査	◎	◎	△

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第1章　簿記の基礎 ～ 第9章　決算	・簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだせている。 ・決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応できている。	・簿記の原理について自ら学び、適正な取引の記録と記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・決算について自ら学び、適正な決算整理と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	5	定期考査　①			
	6	第10章　現金・預金などの取引 ～ 第15章　販売費と一般管理費の取引			
	7	定期考査　②			
	9	第16章　決算整理（その1） ～ 第18章　帳簿決算			
後期	10	第19章　会計帳簿 ～ 第22章　手形の取引	・取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	・取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応できている。 ・本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応できている。 ・記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応できている。	・取引の記帳について自ら学び、適正な会計帳簿の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・本支店会計について自ら学び、適正な本店・支店間取引と支店間取引の記録及び財務諸表の合併に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 ・記帳の効率化について自ら学び、伝票の利用と会計ソフトウェアの効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
	10	定期考査　③			
	11	第23章　有価証券の取引 ～ 第27章　最近の実務に広がる取引			
	12				
	1	定期考査　④			
	2	第28章　決算整理（その2） ～ 第30章　株式会社の取引と財務諸表			
	3				

科目名	情報処理			単位数	2	履修区分	自由選択
対象の部	午前部	午後部		使用教科書 教材	情報処理　新訂版 Prologue of Computer （実教出版）		
履修の条件	日本情報処理検定協会主催の各種検定受験への理解があること。また、合格に向けて努力できること（検定試験は週休日に設定されます）（受験料は教材費として、年度初めに徴収します）						
先生からのアドバイス	進む分野を問わず高校卒業後に必須となる文書作成ソフトや表計算ソフトなどの基本的な利活用について学びます。情報Ⅰ（情報科）は座学が中心ですが、情報処理（商業科）では実技を中心に学習します。 日本情報処理検定協会主催の各種検定（7月、10月、12月、2月実施予定）の受験も行います。そのため、教材費がかかります。（￥5,100予定）						

評価の観点		知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容		企業において情報を適切に扱えるようにするための知識や技術を、実務に即して体系的、系統的に身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	情報を適切に扱うことで、さまざまな問題を発見し、解決していけるようにするための力を身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	情報に関する知識や技術を活用し、主体的かつ協働的に問題を解決し、企業活動を改善していこうとする態度を身に付ける。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。
評価方法	学習状況の観察	△	△	◎
	提出物・小テスト	○	○	◎
	検定試験への取組・結果	○	○	◎
	定期考査	◎	◎	△

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第1章　企業活動と情報処理	・情報システムがどのような技術によって支えられているのかを理解している。 ・情報モラルとは何か、情報モラルを守るためにはどのようなことに気を付ければよいか、などについて理解している。 ・個人情報の構成要素や保護方法について理解している。	・ビジネスにおいて情報を効果的に活用するための情報処理の方法について考えようとしている。 ・情報モラルに関する課題がある具体的な事例について、その問題点と解決方法を考え、表現しようとしている。	・情報処理の重要性について関心を持ち、情報処理について主体的に学習しようとしている。 ・情報社会において、情報モラルを守ることの重要性を理解したうえで、情報モラルをさまざまな場面で実現していこうとする態度を形成しようとしている。
	5				
	6	第2章　コンピュータシステムと情報通信ネットワーク			
	7	定期考査　②			
	9	第3章　情報の集計と分析			
後期	10	第3章　情報の集計と分析	・表計算ソフトウェアの特徴や画面構成について理解し、基本的な操作方法を習得している。 ・情報を処理するための基本的な関数について、それぞれの特徴を理解し、使用する技術を習得している。 ・問題解決にアルゴリズムを活用するための知識を理解し、流れ図によってアルゴリズムを表現するための技術を習得している。	・情報を効果的に活用するためには、情報を統計的手法によって分析することが重要であることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。 ・個人や企業が直面するさまざまな問題について、情報を適切に活用することでそれらを明確にし、解決の方法が見いだせることを理解し、主体的にその方法などを習得しようとしている。	・情報を効果的に活用するためには、情報を統計的手法によって分析することが重要であることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。 ・表やグラフを用いることによって、情報を視覚的に分かりやすく表現することが可能となることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。 ・表計算ソフトウェアを適切に活用することで、情報を分析したり加工したりすることができることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。
		定期考査　③			
	11	第4章　ビジネス文書の作成			
	12				
	1	**実技テスト実施（年度末考査代替）**			
	2	第5章　プレゼンテーション			
	3				

科目名	情報処理			単位数	3	履修区分	自由選択
対象の部			夜間部	使用教科書 教材		情報処理　新訂版 Prologue of Computer （実教出版）	
履修の条件							
先生からのアドバイス	進む分野を問わず高校卒業後に必須となる文書作成ソフトや表計算ソフトなどの基本的な利活用について学びます。 単位数や配当年次等を鑑み、夜間部の授業では課題研究的な要素を取り入れる予定です。受講者各自の希望に合わせた進路学習を行うので、昼間部とは異なり、教材費の一律的な徴収は行いません。また、考査の回数や形式も一部異なります。						

評価の観点	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学ぶ態度
観点の内容	企業において情報を適切に扱えるようにするための知識や技術を、実務に即して体系的、系統的に身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	情報を適切に扱うことで、さまざまな問題を発見し、解決していけるようにするためのカを身に付けているか。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。	情報に関する知識や技術を活用し、主体的かつ協働的に問題を解決し、企業活動を改善していこうとする態度を身に付ける。 A評価:評価規準の全項目について、身に付けている。 B評価:評価規準の一部項目について、身に付けている。 C評価:B評価に到達していない。
評価方法　学習状況の観察	△	△	◎
評価方法　提出物・小テスト	○	○	◎
評価方法　検定試験への取組・結果	○	○	◎
評価方法　定期考査	◎	◎	△

学期	月	学習内容（単元名）	評価規準		
前期	4	第1章　企業活動と情報処理 第2章　コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	・情報システムがどのような技術によって支えられているのかを理解している。 ・情報モラルとは何か、情報モラルを守るためにはどのようなことに気を付ければよいか、などについて理解している。 ・個人情報の構成要素や保護方法について理解している。	・ビジネスにおいて情報を効果的に活用するための情報処理の方法について考えようとしている。 ・情報モラルに関する課題がある具体的な事例について、その問題点と解決方法を考え、表現しようとしている。	・情報処理の重要性について関心を持ち、情報処理について主体的に学習しようとしている。 ・情報社会において、情報モラルを守ることの重要性を理解したうえで、情報モラルをさまざまな場面で実現していこうとする態度を形成しようとしている。
	5	定期考査　①			
	6	第2章　コンピュータシステムと情報通信ネットワーク			
	7	定期考査　②			
	9	第3章　情報の集計と分析			
後期	10	第3章　情報の集計と分析	・表計算ソフトウェアの特徴や画面構成について理解し、基本的な操作方法を習得している。 ・情報を処理するための基本的な関数について、それぞれの特徴を理解し、使用する技術を習得している。 ・問題解決にアルゴリズムを活用するための知識を理解し、流れ図によってアルゴリズムを表現するための技術を習得している。	・情報を効果的に活用するためには、情報を統計的手法によって分析することが重要であることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。 ・個人や企業が直面するさまざまな問題について、情報を適切に活用することでそれらを明確にし、解決の方法が見いだせることを理解し、主体的にその方法などを習得しようとしている。	・情報を効果的に活用するためには、情報を統計的手法によって分析することが重要であることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。 ・表やグラフを用いることによって、情報を視覚的に分かりやすく表現することが可能となることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。 ・表計算ソフトウェアを適切に活用することで、情報を分析したり加工したりすることができることを理解し、主体的にその方法などを学習しようとしている。
	10	定期考査　③			
	11	第4章　ビジネス文書の作成			
	12				
	1				
	1	定期考査　④			
	2	第5章　プレゼンテーション			
	3				